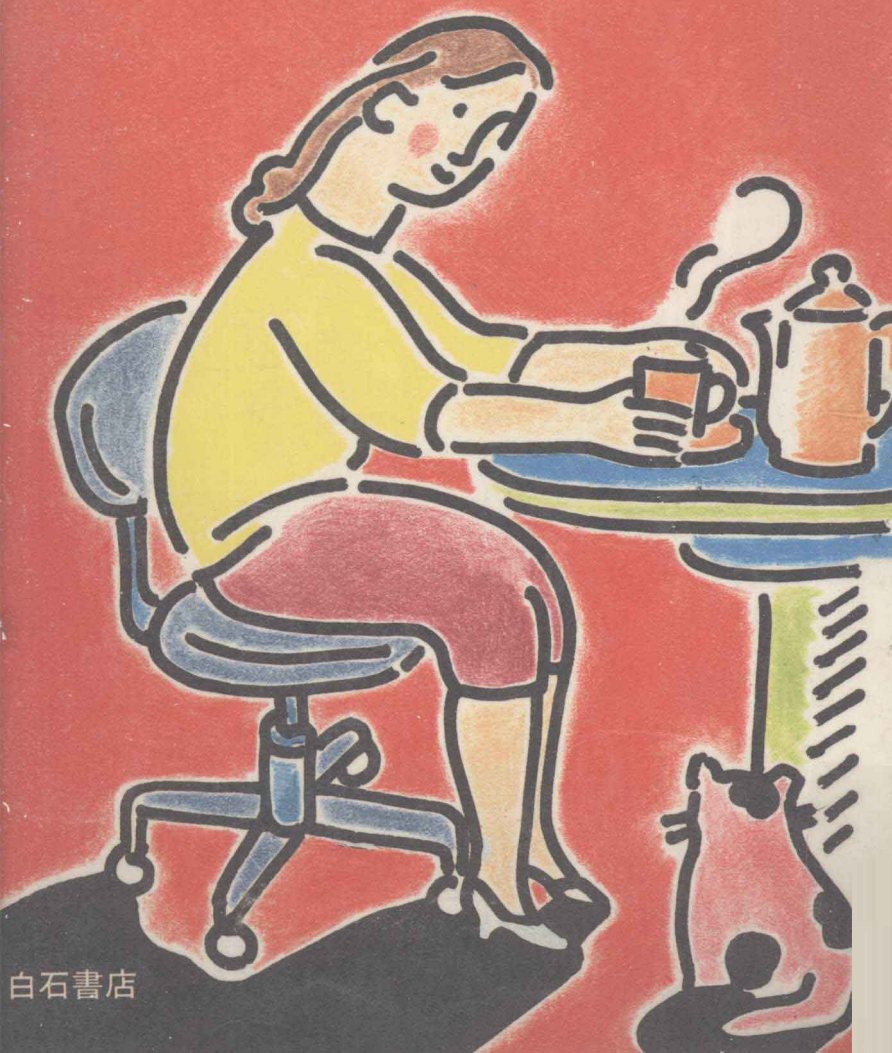


ひとりで歩く女は美しい

下重暁子のエチケットエッセイ



白石書店

ひとりで歩く女は美しい——下重曉子のエチケットエッセイ

1982年5月20日 第1刷発行©

定価 950 円

著 者 下 重 曉 子

発行者 白 石 舜 市 郎

印刷所 文 栄 印 刷

製本所 坂 本 製 本

発行所 白 石 書 店

〒101 東京都千代田区神田神保町1-28

電 話 03 (291) 7 6 0 1

0012-0084-3355

落丁・乱丁本はおとりかいたします

ひとりで歩く女は美しい

下重暁子のエチケットエッセイ

白石書店

はじめに

「個性的に、自分らしくいきいきと生きられる魅力的なひとになりたい」

よくこんな会話を耳にする。個性的に、自分らしく……なるほどごもっともだけれど、じゃそのための努力はしてますか？　とききたくなる。靴や鞆はブランド指向、あの人が持ってたから私もと同じ物を探し、みんなが外国旅行に行くから私も、友達が二十三、四歳で結婚するから私も、といつでも他人の基準で生きていては、折角の個性も自分でなくしていることになる。

個性、あなたらしさとは、他人との違いである。他人と違わないひとはいないから、誰だっ てみな個性があるのだ。その違う素質を大切に生かし、のびしたか、それとも、他人と同じことをし、同じ基準で生きて、折角の個性をなくしたか、それだけの差でしかない。

個性的といわれるひとは、自分を大切に、他人との違いを育てたひとのことをいうのだ。最

初から個性キラキラなどというひとはどこにもいない。

個性を育てるとは、具体的にいうと、自分の頭で物を考え、自分の感覚で物を感じとり、それを自分なりのことばや方法で表現をし、大事なことは自分の基準で選ぶことをいう。それは決してラクではない。いつも人と同じに流されて、ラクな方ばかり選んでいては自分らしい生き方、個性のある人は育たない。

では魅力的とは何だろう。ことばをかえれば感じがいいということだろう。なんとなくその人と話をするとき爽やかになる。なんとなく心に残るというのは、日頃のそのひとの生活態度からきている。もう少しつつこんで考えてみると、感じの良さは、他人に迷惑をかけない、自分のことは自分でという気持ちからきている。

他人に迷惑をかけないためには、自分にまかされた事には責任感が強くなければならないし、他人を尊重することが大切になる。自分を大事にするということは、他人をも大切にすること。自分と他人の違いを大事にすることは、他人の、自分との違いを尊重することだ。そこから思いやりが生まれてくる。

仕事でも私生活でも同じこと。魅力的なひとはその結果生まれてくる。いくらファッションモデルに装っても、最新流行の知識をひけらかしても、身につけていないものはしょせん借り物。

どうかあなた自身をみがいていただきたい。エチケットといっても固くるしい決まりきったものでなく、あなたらしく生きるすべを見出すヒントになればと願っている。

最後に、この本をまとめるために努力して下さった白石書店の中村早苗さんに心からお礼申し上げます。

一九八二年四月

下重 暁子

▽目 次

はじめに 3

I 出合いを求めて——旅、ことば、ひと

旅で拾ったエチケツト 12

「窓ぎわにすわりたいよう」／海外の日本人／毒ガスの島／
祭りの一体感／観光地のアナウンス／旅のころ／積丹の
女子駅伝／三徳山登山／老舗の味／岩手の自然のなかで／
吉里吉里の方言

小さなことば、小さな思いやり 30

「車持ってますか？」／秋の図書館／猫が好き／お役所言
葉／「主人」といういい方／たとえお世辞でも……／ロン
ドンのエスカレーター

時の流れに 41

入谷の朝顔市／上手な余暇の使い方／原爆とパール・ハー
バー／怒りを忘れた民族／ナウイか!? イモっぱいか?!／
OLの名刺／思い出づくり／コースにのった結婚式／まず
自分の身を正すこと

Ⅱ 男性専科——男を発見する女のいい分

ゴリラのブルブル 59

男のニヒルはサマになる 60

エリート男の鈍感さ 62

母性本能をくすぐる男達 63

女もひとりで飲みたいときがある 65

忘年会はサービスデー!? 66

「婚約中はこんなじゃなかった!!」 68

男の口うるささは女をスポイルする 69

共かせぎの亭主族 71

男の早めし色気なし 72

人の話を盗むな男性諸君! 74

男のマニア的執着心 76

Ⅲ おしゃれを楽しむ——そのワンポイントアドバイス

旅でみつけた小さなおしゃれ 80

夏こそ木綿を楽しもう／素足の楽しさ／鈴の音のおしゃれ
／シーズンオフの泥藍大島／旅の服装／石の虫、スカラベ

／香りのエチケツト／“戦中色”はイヤだ／スチエウーデ
スの服装

暮らして楽しむ小さなおしゃれ 93

さりげないおしゃれ——手袋／エプロンの楽しさ／暮らし
のなかに裾長の服を／赤い爪にススキが似合う／文庫本は
アクセサリー？／スカーフをおしゃれのポイントに／ヒス
イの耳飾り／ミニの効用あれこれ！／ろうそくの灯を楽し
もう

男のおしゃれ、みつけた 106

ヒザ小僧の魅力／男の和服姿／キザな男のワンポイント／
男性への贈り物／ジーンズに赤い傘／若い衆の黒ゴム長
おしゃれごろの再発見 115

夏の黒は美しい／女っぽさを消した美しさ／手製のサイン
／花を贈る心／母から子へと伝えるもの／重ね衿の美しさ
／「衿元を愛す」／新婚旅行のカバン／小さな教会で——/
ジューン・ブライド

Ⅳ

おしゃれり上手になるために——あなただけの個性をつくる

あなた自身の発想で語ろう 130

V

- 話し上手は聞き上手 133
 魅力ある話し方のために 140
 スピーチや司会を上手にこなすために 147
 おつきあいのABC——デートを成功させる秘訣

デートに遅れないで！ 158

恋人の心をひらくには—— 160

トイレのタイミング 162

勘定はスマートに支払いたい 164

エスコートは思いやる気持ちから 166

プライベートルームにはいるとき 168

ラブコールは慎重に 171

見送る側のエチケット 173

心にのこる別れのことば 176

VI

フレッシュギャルのあなたへ——
 はやく仕事でひとり立ちするために

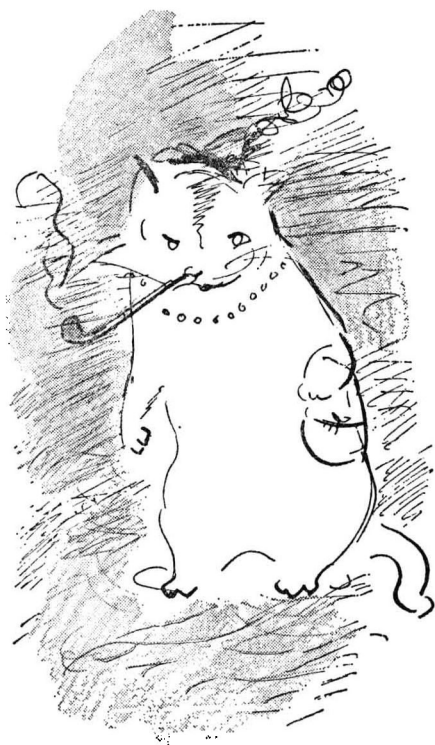
学生ことばにサヨナラしよう 180

敬語に氣をつけて！ 182

お茶くみはどうしたら？	185
恥や口惜しさを大切に	187
まず一人歩きをしてみよう	190
得意先を訪問するとき	192
お金の貸し借りはむずかしい	195
社内恋愛作法ABC	197
「立つ鳥跡を濁さず」	200

I 出合いを求めて

——旅、ことば、ひと



旅で拾ったエチケット

☆「窓ぎわにすわりたいよう！」

夏休みである。子ども連れで電車や飛行機に乗る姿をみかける。そんなとき、ひと目で、その家の様子しつぽがわかる。

先日、仕事先から帰る途中、熊本から飛行機に乗った。私は通路側に座っていた。すぐ前の窓ぎわの席に老人が一人で座った。たぶん、東京にいる息子か娘のところへ、孫の顔でも見にくところなのだろう。飛行機がいかにも初めてで楽しみにしていた様子が手にとるようにわかる。ベルトをしめ、窓の外を一生懸命にのぞいて、飛びたったあとの風景を楽しみにしているようだ。なんとなくほほえましくて、私は老人を見守っていた。

すると、後からやってきた母と娘が、その隣の座席番号を持ってきた。ところが小学校一、二年らしい娘が座ろうとしない。そして、こういうのだ。

「窓ぎわじゃないの？ ママ。窓ぎわに座りたいよう！」

すると母親は、娘をたしなめるどころか、「ほんと。窓ぎわの人代わってくればいいのにねえ」と聞こえよがしに老人を見ながらいう。まもなく飛びたとうとするのに娘は座ろうとせず、文句をいいつづけ、ついにたまりかねた老人は娘に代わってやった。せっかくあんなに窓の外を楽しみにながめていたのに。

こうした母親は実に多い。子どもがこうしたといえは、それが他人に迷惑であろうとなかろうと、かなえることしか考えない。しかるところか子どもの意を迎えることしか頭にない。そうした親の子は、子どもだから何をしてもいいと思いきんではいる。社会のルールも他人への迷惑も考えず、自分だけよければいい人間ができ上がっていく。私はよほど、母親と娘に、「それはまちがっている」といってやろうかと思った。

電車の中でも自分のこと、自分たち一家のことしか考えない家族をよくみかける。こうしたエチケットのかけらも心得ぬ人間が増えている。恐ろしいことだ。

☆海外の日本人

このところ、成田や羽田は、人・人・人で埋まっている。国内旅行から海外旅行まで、夏の民族大移動のシーズンである。

さて、この移動した日本人同士が、外国ではち合わせたらどうなるか。場所によっては、はち合わせどころか、日本人にしかお目にかかれないうる所もあるわけだから、この際、外国で同国人に出会った場合のエチケットを考えてみよう。

日本人同士が出会った場合の反応には、二種類ある。私もよく海外で経験するのだが、一つは、「あら、また日本人？」と自分が日本人であることを忘れてしまったかのような不快感を表情にあらわし、そっぽを向く。

もう一つは正反対に、べたべたとくっついてくる。自分の氏、素性、そして、こちらの家族、職業、などなど戸籍しらべが始まる。海外で日本人に出会って親しみをおぼえての表現なのだろうが、これにはまいてしまう。飛行機の隣の席などの場合、眠るに眠れず、自分のペースをくずされてしまうし、下手をすると、「じゃあご一緒に」といわれかねない。

そ知らぬふりをするか、べったりくっつくか、なぜ両極端なのだろうか。もっとさり気なく、「おや、あなたもやってますネ」という親愛の情をこめて会釈する程度にできないのだろうか。これは多分に、島国根性がぬけず、旅なれていないからだろう。他国の人とのつきあい方だけ

でなく他国で自分の国の人と出会ったときのつきあい方を心得ていない証拠にちがいない。

欧米人が旅先で出会ったときをみると、同国人とわかると、実にさり気なく笑顔を見せる。それ以上に深入りもしない。

欧米人は顔貌かたもが似ているので、同国の人かどうかかわかりにくい、日本人は一目でわかる。こんなに猫もしゃくしもと海外へ出かけるようになったのなら、もっと「さり気ない」エチケットが、育ってきてもよさそうだが。

☆毒ガスの島

仕事で、広島県の竹原に出かけた。そのついでに足をのばし、船で十五分ばかりの大久野島を訪れた。大久野島は、戦時中、旧陸軍が毒ガスを製造していた島である。

戦時中は、この島は地図から消えていたというし、呉線を通る列車は、みなこのあたりで窓にシャッターをおろして走らなければならなかった。大久野島は、こうした機密の島として人びとの目から隔離されていた。隔離しなければならぬものを作っていたのである。

そして戦後この島は見事に生まれかわった。国民休暇村として、今では、若者や家族連れが、